

ざっくばらんに交流しよう！

～居場所づくりと消費者団体の関わり～

【日時】2017年12月1日（金）13:30～16:00

【会場】東京都消費生活総合センター 16階 学習室A

【参加者】46名

【主催】23区消費者団体交流会実行委員会

【協賛】東京都消費者月間協賛事業

司会：遠島 久美子さん
〔大田区消費者団体連絡協議会〕



釜井 英法さん
〔TOKYO 消費者行政
充実ねっと〕

開会挨拶：4回目を迎えるこの交流会は、毎回テーマを設定して他の分野で活躍している方や行政の方などの報告を聞いて、みんなでざっくばらんに交流しながらテーマの内容を深めてきました。今日の交流会も居場所づくりをテーマに充実した話し合いができることを期待します。

プログラム

<活動報告>

- ① 野方「みんなの食堂」
- ② 東京南部生活協同組合

<ワークショップ>

居場所づくりと消費者団体の関わり

「野方みんなの食堂」は子どもやお年寄りにとってどんなところ？

報告者：NPO法人 ここからプロジェクト代表 伊藤 由宏さん

『野方みんなの食堂』は、月に一度、地域の子ども、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばちゃん、誰もが気軽に来られる食堂です。行政と連携して貧困状態の子だけに絞るのではなく、貧困であるなしにかかわらず家計が助かる人たちが集まる形なので、地域のコミュニティづくりの場となっています。



みんなの食堂だと、ワイワイしながら家で食べない野菜もパクパク！！たくさんの人と楽しく食べられるよ。



よびかけの工夫は・・・

- 地域の小学校や中学校へのチラシ配布やSNSを使って。
 - 土曜日の昼間に児童館に来る子どもには声をかけます。
- 本当に深刻な子どもは行政や民生委員でも見つけられないことが多いし、情報も届かないことが多いです。

子ども食堂は、雨もりの雨を受ける桶だと思います。そもそも雨もりがおきないように家(日本)を修復しなければならない。そんな社会こそ、私たちが未来を担う子どもたちに残したい社会です。

これからは物品の寄付などを地域に頼るなどして、もっと地域のみなさんの参加を促し、さらに進化させていきたいです。

フードドライブの取り組みと居場所づくり

報告者：東京南部生活協同組合 常務理事 国田 研二さん



『フードドライブ』のきっかけは、2015年9月に「NPO法人フードバンク山梨」の米山理事長を招いての「食品ロスとフードバンク」の学習会でした。

「東京南部生協中期3年計画」の1つの課題として、子どもの貧困について何か取り組めないかと検討していたことから、「NPO法人フードバンク狛江」などを訪問して手探りで始めました。現在、年2回お中元とお歳暮の後に、組合員にお知らせをして、供給ルートを使って寄付食品を回収し、3つの団体に届けています。

〈NPO法人 フードバンク狛江〉

狛江市の生活相談窓口を通じて食べ物に困っている方へ提供している団体です。夏には、400キログラムの食品を寄贈しました。

2017年6月の通常総代会に田中理事長を招待してご挨拶をいただきました。



〈子ども食堂 in おおた〉

大田病院の職員を中心に実行委員会が月1回開催。主にお米や希望の食材を提供しています。

〈ゆたか診療所の「宿題外来」〉

月1回子どもたちが集まって夕食を食べた後に、定年された教師に宿題を見てもらいながら勉強します。毎回炊き込みご飯を食べるのでお米を提供しています。



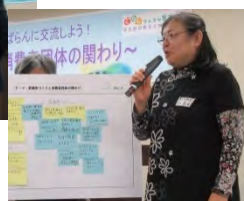
『居場所づくり』は、南部生協独自で行うことは難しいので、城南保健生協や地域の団体と協力して行っています。城南保健生協とは定期協議を開催し、お互いの組織で協力、共同できるものはないかと検討し、平和関連の学習会や講演会、「歌カフェ」などで協力しあっています。その他に、都内散策、いきいきけんこう体操にも取り組んでいます。



歌カフェ：2か月に1回開催。回を重ねるごとに参加者が増えています。

ワークショップ：居場所づくりと消費者団体との関わり

2つの報告を聞いての感想や課題、消費者団体としてできることなどを出し合い、その後すべてのグループが報告しました。



〈アンケートより抜粋〉

- ★さまざまな方が集まって、今問題視されているテーマを共有することは大事だと思います。
- ★話し合いの中で知らなかったことが沢山あり大変勉強になりました。
- ★具体的に今活動している方のお話が聞けて良かったです。

閉会挨拶：2つの報告を聞いて問題点がわかり、それを受けての話し合いができました。「雨もりの桶」ではなくもう一歩進んだ形になれるよう頑張っていきましょう。



羽賀 育子さん
〔中野区消費者団体連絡会〕